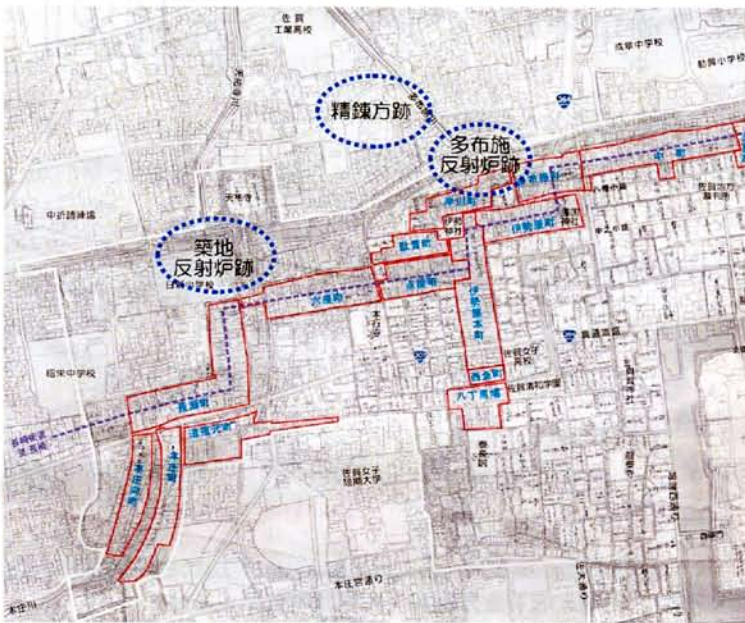


日本銃砲史学会第422回例会 in 佐賀

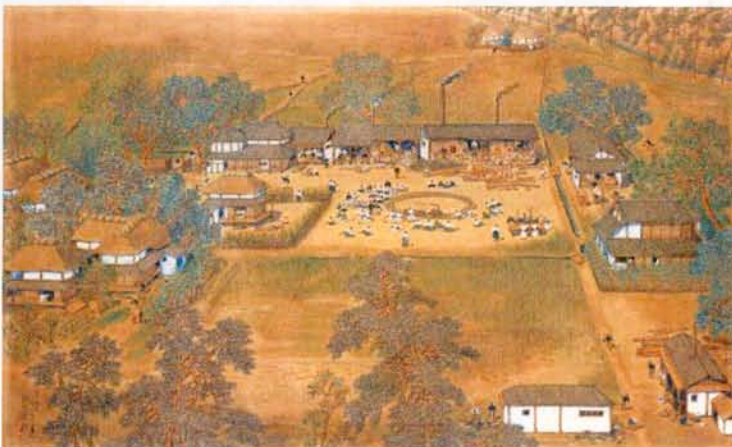
幕末佐賀藩関連史跡見学会資料



佐賀城下の西北



築地反射炉絵図(公益財団法人鍋島報効会蔵)



佐賀藩精錬方絵図(公益財団法人鍋島報効会蔵)



多布施公儀石火矢鑄立所図(公益財団法人鍋島報効会蔵)

ホテルルートイン佐賀駅前(09:00)

➡ 築地反射炉跡(09:15~09:45) ➡ 精錬方跡~多布施反射炉跡(10:00~11:00)

➡ 三重津海軍所跡(11:30~13:00)

➡ ホテルルートイン佐賀駅前(13:30)

築地反射炉跡

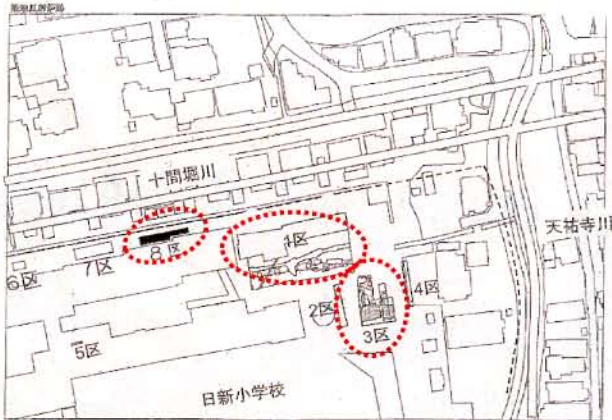
設置目的	長崎両島台場への鉄製砲配備
鑄造計画	36ポンド砲14門・80ポンド14門・150ポンド2門（自藩規格）
起工	嘉永3年7月（1850.08）
竣工	嘉永5年6月（1852.07）
炉配置	西炉2炉・北炉or東炉2炉（4炉構成）の逆L字型配置
平錐台	水車1基・三連錐台1基（3座）
改装	嘉永7年7月（1854.08） 改装後には幕府供給分も鑄造
鑄造実績	8ポンド砲10門（試験鑄造）・24ポンド砲7門（幕府規格）・36ポンド砲15門（自藩9・幕府6）・80ポンド砲4門（自藩規格）
解体	安政4年7月（1857.08）～ 安政6年10月（1859.10）



「築地大銃製造方見取図下絵図」部分（佐賀県立図書館蔵）



築地大銃製造方模型（佐賀城本丸歴史館蔵）



築地反射炉跡の発掘調査地点



築地反射炉跡 8区 北炉 or 東炉の基礎？（2014.08）



築地反射炉跡 3区 こしき炉の廃棄坑（2011.08）



築地反射炉跡 1区 溝跡（2009.08）

精煉方跡

設置目的

嘉永5年11月10日（1852. 12. 20）に火薬製造部門として設置後、主として西洋科学技術研究、殖産興業推進に移行し、特に蒸気船製造など海軍方との結び付きが強かった。

銃砲関連の活動

蒸気砲 嘉永7年5月（1854. 06）に三匁程度の蒸気砲を試作開始、安政4年9月（1857. 11）に完成

平錐台 安政3年8月（1856. 09）から田中近江が多布施の平錐台を改良

ドントル管 安政3年9月（1856. 10）から製造開始、後に合薬方に引き継ぐ

反射炉 安政4年10月（1857. 12）に中村奇輔の発案で、地鉄に水で練った生石灰を塗って溶解、24ポンド長砲・30ポンド中砲を鋳造

ライフル入れ道具 文久元年7月19日（1861. 08）から製造？

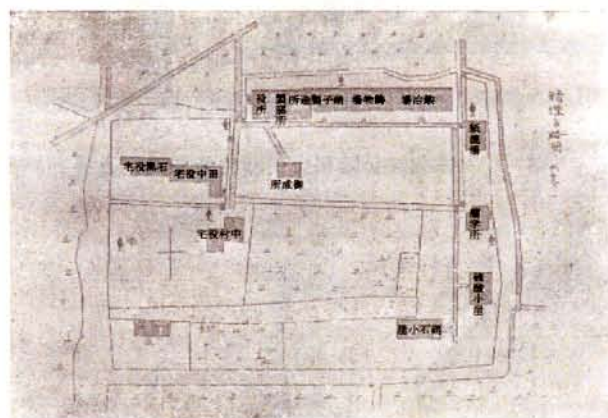
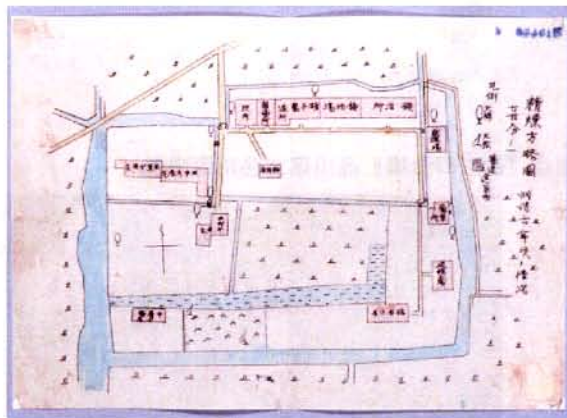
ライフル砲 文久元年12月（1862. 01）に1ポンド（？）ライフル砲試射

六角砲 慶応2年5月（1866. 07）までに六角砲（ウィットワース式？）を試作

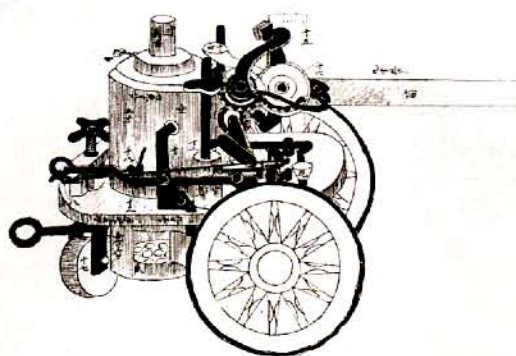
ライフル砲 慶応2年11月（1866. 12）にオランダ式1ポンドライフル砲を試作（製作は大銃製造方）

その後

廃藩置県後、鍋島家の経営に移り、明治27年（1894）にガラス製造の精煉合資会社が成立



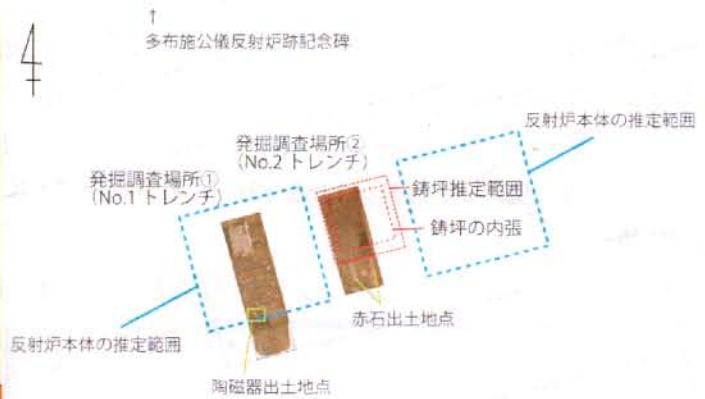
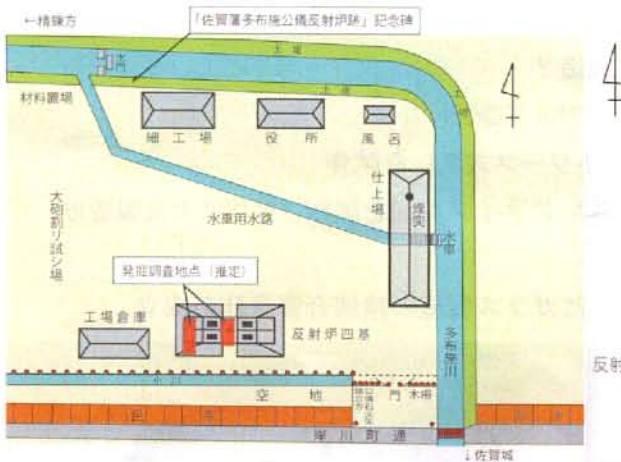
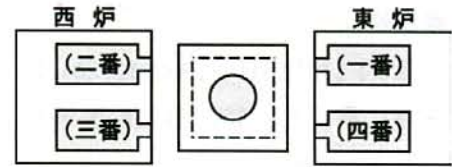
明治六年 精煉方略図（佐賀県立図書館蔵）



「蒸気砲雛形設計図」『田中近江大掾』

多布施反射炉跡

設置目的	幕府への鉄製砲供給
鑄造計画	24ポンド砲25門・36ポンド25門（幕府規格）
起工	嘉永6年9月（1853.10）
竣工	嘉永7年3月（1854.04）
炉配置	西炉2炉・東炉2炉（計4炉）の対向（H字）型配置
平錐台	水車1基・三連錐台2基（6座）
鑄造実績	24ポンド砲36門・30ポンド30門・36ポンド砲28門・150ポンド砲3門
解体	明治4年7月（1857.08）～ 安政6年10月（1859.10）



多布施公儀石火矢鑄立所見取図と多布施反射炉跡発掘地点『品川御台場』品川区立品川歴史館



「塵壺」（長岡市立中央図書館蔵）



西炉本体の桐木基礎検出状況（2010）



鑄坪の内張り構造（南辺）



鑄坪内部の鑄砂と耐火レンガ等の廃棄状況